

於：丸紅(株)本社4階会議室

選者 川口孤舟

句会出席 柿崎忠彦 久米五郎太 後藤とみ子 在間千恵 佐藤ただしげ 土谷堂哉

西澤國護 古田昇 星田啓子

投句・選句 熊谷くにお 小早健介 田島正己 古川百合子 山崎亜也 山田けい子

山内天牛 渡邊盛雄

投句のみ 豊田ゆたか

選句のみ 梅崎くすを 重枝孝岳 庄司龍平 高橋清子 橋口隆 早川允章 福島正明

山本三恵



【互選句】 句の上に配した◎は孤舟選者の選。()内の○は互選句選者の「天」

十二点

北国のため息聞こゆ雪五尺

千恵

(○と・○健・た・己・堂・國・昇・啓
亜・け・天・○盛)

八点

◎一言が気に懸かりたる賀状かな
八十路来て七種粥のしみじみと
◎半分が又その半分に雑煮餅

堂哉 全 正明

(くす・孤・千・孝・己・國・昇・三)
(忠・と・た・清・正・百・け・盛)
(くす・孤・忠・五・國・昇・百・啓)

六点

◎はらからとお国訛りの初電話
◎今時の歌は散文年暮るる
ひととせを耐へて椿の綻びぬ

昇 啓子 全

(孤・と・龍・清・隆・盛)
(孤・く・健・五・千・龍)
(くす・健・た・孝・正・け)

五点

玄関にたれかれのこゑ大福茶
◎立ち尽くす逆転負けのラガーたち
◎微酔帯ぶ戦なき世の初詣

とみ子 健介 盛雄

(五・○龍・己・啓・亜)
(孤・龍・昇・啓・け)
(くす・孤・く・堂・三)

四点

◎雪女秘境の駅に佇みぬ
雲海に浮かぶ白富士初飛行
初風呂や一念託す四肢に触る

とみ子 堂哉 盛雄

(孤・健・孝・○昇)
(た・清・允・百)
(堂・孝・清・三)

三点

元朝や笹鳴く鴻の深き黙
 忘れぬ寒のこの日の大震災
 能堂に神の連れ舞淑気満つ
 年の瀬や席を譲られ歳を知る
 ◎お久しぶりの声行き交うや初詣
 ◎冬の駅湯気にもみれてすする蕎麦
 去年今年跨いで星の光り合ふ
 初夢や目覚めの間(あわひ)迷ひ道
 ◎屠蘇散やドラッグストアでそれ何と
 年賀状待ちくたびれて昼餉かな

くにお
 健介
 とみ子
 ただしげ
 正明
 百合子
 昇
 啓子
 亜也
 全

(くす・啓・三)
 (忠・堂・正)
 (五・け・三)
 (く・允・正)
 (忠・孤・允)
 (孤・た・國)
 (〇くす・五・龍)
 (〇孝・亜・盛)
 (孤・千・啓)
 (隆・百・天)

二点

年越しの蕎麦をするする酒美味し
 細葱を刻む俎始かな
 冬ぬくし六文字を彫る雅印かな
 ◎大吉を喜ぶべきか初詣
 振袖は母娘孫へと成人の日
 歌舞伎座へたんすに眠る毛皮着て
 冬晴れに白波高く荒れる瀬戸
 義母(はは)送る師走の空は涙顔
 冬の空星降るとき流れ星
 孫来る半世紀ぶりの独楽回し
 活き活きと漢温まる柚子湯かな
 節料理女賑わふ厨かな
 十一人親族集まり雑煮膳
 初夢は家で転んで膝さすり
 逝きし日のパジャマそのまま年惜しむ
 ミニチュアの門松を置く飾棚
 我が町のいつもと違ふ初景色
 淑気溢ち朝焼け滲む東山
 元旦や干支の鈴さげ息子来る

忠彦
 くにお
 五郎太
 全
 全
 千恵
 ただしげ
 全
 全
 全
 正己
 全
 全
 堂哉
 全
 ゆたか
 全
 百合子
 昇
 全
 啓子
 天牛

(允・正)
 (天・〇三)
 (百・啓)
 (孤・千)
 (堂・盛)
 (亜・天)
 (く・允)
 (と・隆)
 (く・國)
 (正・天)
 (允・盛)
 (己・亜)
 (龍・隆)
 (天・啓)
 (く・己)
 (健・國)
 (五・清)
 (堂・清)
 (啓・亜)

一点

いつしかに守られる側年迎ふ
 庭先の蠟梅空へ花満開
 せち料理老夫婦分お取り寄せ
 ランウェイを歩くが如し寒鴉
 近松のおどろおどろし初芝居

とみ子
 ゆたか
 國護
 五郎太
 千恵

(孝)
 (己)
 (隆)
 (け)
 (と)

発起してクスワット始む寒の入り
 初夢を見たね忘れた老夫婦
 冬空や浮かぶ雲なく息白く
 賀状読み心触れ合い胸温み
 連日の青空続き松納め
 参道を神馬曳かれて淑気満つ
 ◎のしのしとふくら雀の妊婦さん
 ゆるやかな母のゆまりや寒の入り
 凍て星や日比谷通りに尾灯星
 相次いで経文聴くや冬ざるる
 お年玉もらいし孫がハグをする
 玲瓏たるみずほの国の初景色

~~~~~

|     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 全   | 堂哉  | 國護  | 全   | 全   | 昇   | 百合子 | 全   | 全   | 啓子  | 天牛  | 盛雄  |
| (と) | (隆) | (た) | (千) | (忠) | (千) | (孤) | (啓) | (健) | (百) | (忠) | (昇) |

【句評・短評】

十二点句

北国のため息聞こゆ雪五尺

千恵

健介さん・・・能登の近くにある娘婿の実家が一昨年元旦の大地震で壊れ一家で避難、それ以来両親が体調崩し病気がちに。加えて今冬は豪雪。正にため息です。

とみ子さん・・・読む人それぞれが、このお句から想像を膨らませる事の出来る秀逸句と思います。ただしげさん・・・最近の大雪情報を思うとため息以上のものを感じる。

昇さん・・・今年の青森や秋田の方には、この積雪で熊が出ないのは歓迎だけど、やはり雪掻きは大変と複雑なため息が。

亜也さん・・・誰しも自ずと思ひ遣ることになる、この豪雪の寒中。  
 天牛さん・・・本当に今年の雪はひどい。酸ヶ湯では日常だといっています。ため息どころではありませぬ。

盛雄さん・・・温暖の瀬戸内に住む小生にとって雪の怖さが十分に伝わる一句です。中七の「ため息聞こゆ」が全てです。

八点句

一言が気に懸かりたる賀状かな

堂哉

孤舟選者・・・読み手を不安にさせる一言とは・・・。  
 千恵さん・・・賀状にはあまり詳しくは書けないだけに余計気になります。

八十路来て七種粥のしみじみと

堂哉

ただしげさん・・・七種粥を食べることで八十路を迎えた喜びを上手く表現している。  
 とみ子さん・・・習わしとは言え、私も七種のお粥の良さがわかるようになりました。  
 百合子さん・・・最近、昔からの言い伝えや行事が身に沁みます。

半分が又その半分に雑煮餅

正明

孤舟選者・・・雑煮が喉に詰まる事故が多い。

五郎太さん・・・私も娘たちも半分にしました。「半分をまた半分に」より、字余りのこちらの表現のほうがいいですね。  
昇さん・・・歳を取ると食が細くなる。雑煮餅が半分になり、今年はその半分と四分の一に。情けなくなる。その気持ち良く分かる。半分のリフレインの調子も良くて上手い。  
百合子さん・・・年々細る食が顕著にあらわれるのが雑煮餅ですね。

## 六点句

### はらからとお国訛りの初電話

昇

孤舟選者・・・幼友達とはついお国訛りの会話となる。

とみ子さん・・・お互いに楽しみな初電話ですね。

隆さん・・・正月のリラックスが伝わる。

### 今時の歌は散文年暮るる

啓子

孤舟選者・・・テンポといい外来語の歌詞といい、年寄りにはなかなか馴染めない。

くにおさん・・・昨今は歌ばかりでなく、俳句にも散文調が多く見られます。

五郎太さん・・・紅白は知らない歌手ばかり、歌もずいぶん変わりました。

千恵さん・・・昭和の歌の歌詞は口ずさみたくなるような詩になってましたね

龍平さん・・・今始まった話とも思えませんが・・・

### ひととせを耐へて椿の綻びぬ

啓子

ただしげさん・・・最近の厳しい気候を考えると椿が綻びるだけでほっとするものがある。

## 五点句

### 玄関にたれかれのこゑ大福茶

とみ子

五郎太さん・・・中七上手です。賑やかなお正月ですね。

龍平さん・・・こいつは 春から縁起が良いワイ ですねン？ 忽ち嬉しゅう成りマスガナ。

亜也さん・・・年始客の多かった昭和の正月を彷彿。

### 立ち尽くす逆転負けのラガーたち

健介

孤舟先生・・・接戦で負けた悔しさ。

龍平さん・・・無念は晴れずそれ以外に何が出来ますでしょうか？

啓子さん・・・1分足らずの中でのトライ！ 歓喜と呆然悲喜交々。

### 微酔帯ぶ戦なき世の初詣

盛雄

孤舟選者・・・平和な日本で新年を迎えられる幸せ。

## 四点句

### 雪女秘境の駅に佇みぬ

とみ子

孤舟選者・・・雪深い秘境の駅頭で、雪女と思われる老婆に出くわした。

昇さん・・・雪深い山奥の辺境の駅には、如何にも雪女が出て来そう。プラットホームで汽車

を待つ女性が雪女に見えたのかも。秘境の駅が実に良く効いている。

### 雲海に浮かぶ白富士初飛行

堂哉

允章さん・・・初飛行で見る雲海に浮かぶ富士の美しさ。

百合子さん・・・飛行機にのる醍醐味！

### 三点句

元朝や笹鳴く鴻の深き黙

くにお

啓子さん・・・元朝と深き黙の取り合わせに、新たな年を迎えた早朝の祈りに近いものを感じました。「元朝」と「笹鳴く」は季重なりとの意見もありましたが、ちつちと密かに鳴く声を添えて尚、黙を超える雰囲気が生まれているようにも思います。

能堂に神の連れ舞淑氣満つ

とみ子

五郎太さん・・・お能初め、舞うのは「翁」でしょうか。  
年の瀬や席を譲られ歳を知る 　　ただしげ

允章さん・・・自分では判らないが端から見ればいい歳だと思われている。数年前からすなをに好意を受けている。

お久しぶりの声行き交うや初詣

正明

孤舟選者・・・寒気のため暫く外出を控えていたが・・・  
允章さん・・・近所に居ても普段はほとんど会うことや話をする事が無いが、お正月には初詣などで会ったり話したりすることが出来る。

去年今年跨いで星の光り合ふ

昇

五郎太さん・・・大空でも新しい年が始まりました。  
冬の駅湯気にもみれてすすする蕎麦 　　百合子

孤舟選者・・・寒風吹きすさぶ駅ホームの立ち食い蕎麦。  
ただしげさん・・・がらんとした冬の駅で暖かい蕎麦を食べる情景が浮かぶ。

初夢や目覚めの間(あわひ)迷ひ道

啓子

孝岳さん・・・明け方に見る夢は思うようにならぬ事ばかり。まして初夢ともなると尚更です。共感します。

亜也さん・・・「迷ひ道」が何とも好みです。旧カナは「あはひ」？

※編集子・・・「間」について、亜也さんのご指摘通り、旧かな表記は「あはひ」が正しい。

屠蘇散やドラッグストアでそれ何と

亜也

孤舟選者・・・「お屠蘇」が分からない若者が増えたようだ。  
千恵さん・・・お正月用に屠蘇散を購入することは必須です！でも最近はお屠蘇を飲まない家が多いみたい。そのせいかどうかその必須のアイテムを私自身購入を忘れるという大失態を犯しました。

年賀状待ちくたびれて昼餉かな

亜也

隆さん・・・年賀状仕舞いもあるが続けたい。年賀状が墨字からペンに変わった人、九十五歳になるのでお仕舞にしますと添書きの人。年賀状は人生である。

百合子さん・・・十年以上前に止めてしまった年賀状ですが、待ちくたびれていたあの頃が懐かしい。  
天牛さん・・・去年頃まではお雑煮の頃には賀状が届いたものですが、人手不足か今年は昼餉にも間に合いませんでしたね。

### 二点句

年越しの蕎麦をするする酒美味し

忠彦

允章さん・・・正月の用意も済み、年越し蕎麦をすすりながら、ゆつたりと飲む酒の味。  
細葱を刻む俎始かな 　　くにお

天牛さん・・・何の用途か知りませんが、妻も冷蔵庫から細葱を持って来てとよく云います。  
三恵さん・・・年一番が、直接年始を連想させる素材ではないことがさらっと表現されていて面白いと思

いました。鍋の薬味用でしょうか。

### 冬ぬくし六文字を彫る雅印かな

五郎太

百合子さん・・・どんな六文字を彫られたのでしょうか。

啓子さん・・・書か絵か、どこかに展示されるのでしょうか、雅印を作る少し誇らしいような嬉しさ。上五の季語の選択にお気持ちを感じられます。

### 大吉を喜ぶべきか初詣

五郎太

孤舟選者・・・大吉より中吉の方が未来を約束されるようだ。

千恵さん・・・この一年世界中が心の冷えることばかりが起っていることを考えると個人的な「吉」をただ喜んでいて良いのかなあんと思ったりもします。

### 振袖は母娘孫へと成人の日

五郎太

盛雄さん・・・三代が使用の美しき振袖、家族愛そのものです。晴れやかな成人の日。

### 歌舞伎座へたんすに眠る毛皮着て

千恵

亜也さん・・・ハレの日を大切にすることを心気一票。多少重いのは我慢するとして…。

天牛さん・・・男は厚手のオーバーか、ダウンで済みますが女性はそうはいかない。皆さんおしゃれしていますね。

### 冬晴れに白波高く荒れる瀬戸

ただしげ

くにおさん・・・上五「冬晴れや」下五「瀬戸荒るる」ではどうでしょうか。

允章さん・・・強風に吹き払われた青空と白波立てる瀬戸の海。

### 義母(はは) 送る師走の空は涙顔

ただしげ

隆さん・・・義母との出会いも稀有な確率。自ずと涙顔。

### 孫来る半世紀ぶりの独楽回し

正己

天牛さん・・・孫の保育園も。独楽回しや、カルタや色々遊びをさせられて爺さんのうまさを見せたものです。

### 活き活きと漢温まる柚子湯かな

正己

允章さん・・・庭で採った柚子でゆったりと湯につかる。まさに生き返った気分である。

### 節料理女賑わふ厨かな

堂哉

亜也さん・・・これもなにやら昭和の追想めく。映画なら東宝か松竹か。「賑わひ」は「賑はひ」？

※編集子・・・亜也さんのご指摘どおり、「賑わふ」は「賑はひ」が正しい表記です。

### 十一人親族集まり雑煮膳

ゆたか

龍平さん・・・親族が多数集えば食べ物は何であれ

隆さん・・・核家族が理想だった日本、今や大家族を愛でる時代。

### 初夢は家で転んで膝さすり

ゆたか

天牛さん・・・転ぶまでの夢をみるとしても膝をさするまでが面白い。

### 我が町のいつもと違ふ初景色

昇

五郎太さん・・・日の丸もでていないが、なにか清々しい元旦の朝の町。

### 淑気溢ち朝焼け滲む東山

啓子

※編集子・・・淑気(新年)と朝焼け(夏)の季重なりになっていました。

## 一点句

### せち料理老夫婦分お取り寄せ

國護

隆さん・・・「老ひて取るお節料理の目出度さや」でも。

近松のおどろおどろし初芝居

千恵

とみ子さん・初芝居にこの演目？と私も思いました。

発起してクスワット始む寒の入り

千恵

とみ子さん・寒の入り一念発起とは 意気込みが伝わってきます。

初夢を見たね忘れた老夫婦

堂哉

隆さん・「初夢を見たか尋ぬる老夫婦」でも。初夢は、正月の宝くじのような風物詩。

冬空や浮かぶ雲なく息白く

國護

ただしげさん・真っ青な冬の空と吐く息の白さの対比が面白い、

参道を神馬曳かれて淑気満つ

昇

千恵さん・神社で白い馬に出会ったりしたらなんとなく気が引き締まり幸せを貰ったような

気分になりませんか？

のしのとふくら雀の妊婦さん

百合子

孤舟選者・寒気を防ぐため全身の羽毛を膨らませているのに、妊婦のお腹のような膨れ方だと

は・・・。

相次いで経文聴くや冬ざるる

啓子

百合子さん・冬ざるるの一言がすべてを語っていると思いました。

元旦や干支の鈴さげ息子来る

天牛

亜也さん・令和の今、息子が来るだけでも上等。カランカランと音も聞こえて楽しい句。



### 【次回青葉会】

第四百七十八回 青葉会

日時・場所：令和八年二月二十六日(木) 十三時から 丸紅本社 4階会議室

※初句会に続いて丸紅本社4階の会議室です。

ご出句数：ご出席予定者は5句 ご投句の方は2句 を目処にご提出下さい。

ご出句〆切：二月二十一日(土)

第四百七十九回 青葉会

日時・場所：令和八年三月二十六日(木) 十三時から

世田谷区施設 三軒茶屋しやれなあど六階 部屋名：ビーナス

ご出句数は二月に同じ。

ご出句〆切は三月二十一日(土)



### 【青葉会報】

一、 今回の初句会ご出席者は九名。大阪から堂哉さんがお越しくださり、披講時には、いつもより闊達にご意見や句に想起されるお話などで和気藹々と新年らしい句会となりました。一方、孤舟選者は暫く選句のみでのご参加でお早いご快癒をお祈り致します。

二、 句会の結果はご覧のように、千恵さんが初めての最高点を獲得されました。一茶の「雪五尺」がずっと心に在り今年の北日本、日本海側の豪雪が思われ出来た句だそうです。最高点初獲得、おめでとうございます。

《 関係者近詠 》

青葉会句友の古田昇さん 朝日俳壇に登場！

昨年の青葉会の総括の中で案内された各月の最高得点獲得4回の古田昇さんが朝日新聞「朝日俳壇」に投句され（久しぶりのご投句だったそうです）、選者大串章氏選の中で一番目の選となりました。

※朝日新聞を取っておいでの方は今年二月一日（日）発行の新聞です。

急逝の友の癖字の賀状来る 古田 昇

選者 大串章 評 賀状が届く前に発信人が死去。啞然として「友の癖字」に見入る。

ついそこに内館牧子風の盆 山内 天牛

内館牧子さんが亡くなられたとの記事に、かつて青葉会で風の盆にお出かけになった時に内館さんがいらしていたのを思い出して追悼の思いを込めて作られたそうです。

春からは縁起かつぎの神田明神 橋口 隆  
初春は母と散歩の光中 全

いつもは選句のみの隆さんですが、時には作句もされるようです。これからは是非！

吹かれては吹かれて低く秋小灰蝶 弘子

白萩の紅萩の下（もと）通りやんせ 全

念仏をまうせやまうせ鉦叩 全

聞き分けの良き上の児よ初紅葉 全

すつぽりと雀隠るる蘆穂波 全

女房の始末才覚西鶴忌 全

虫売の服腰の長煙管 全

空井戸の滑車からから亀城の忌 青史

村芝居夫は今年も馬の脚 全

馬の脚ふたり楽屋で新走 全

蛇笏忌や露のいのちを愛ほしむ 全

爽籟やすぐに腹切る太平記 全

固定電話所在無げなる寒露かな 全

新酒酌むべしこの先あまり長くない 全

——— “森の座” 横澤放川選（日経新聞俳壇選者）

令和八年二月十日

（了）